

第5回 危機管理シンポジウム 「大規模災害に対する備えの現状と課題」を開催

香川大学危機管理研究センター（平成20年4月1日創設）では、地域の防災・減災活動等に役立てていただくために創設以来、「危機管理シンポジウム」を実施して参りました。今年は第5回目を迎え、2月20日（水）にサンポートホール高松において開催しました。

シンポジウムのテーマは、「大規模災害に対する備えの現状と課題」です。

第Ⅰ部では、「危機管理研究センター平成24年度事業報告」として、「地域継続マネジメント（DCM）」推進室の成果報告等（センター長、工学部・白木 渡教授）、「防災士養成講座（社会人向け）及び防災士養成特別教育プログラムの紹介」（研究員、工学部・長谷川 修一教授）、「学校・市民防災教育への支援活動の紹介」（研究員、工学部・井面仁志教授）、「メンタルヘルスプロジェクト活動の紹介」（研究員、医学部・鈴江 毅准教授）を実施しました。

第Ⅱ部では、講師に（独）海洋研究開発機構 地震・津波防災研究プロジェクトリーダーの金田義行様を迎え、『南海トラフ巨大地震研究の最前線』をテーマに基調講演会を実施しました。平成24年8月29日に内閣府から、南海トラフの巨大地震による津波高・浸水域等（第二次報告）及び被害想定（第一次報告）が公表されました。これを受けて各自治体では、個別の防災対策が検討されています。金田先生には、南海トラフ巨大地震研究の最前線の状況と香川県を対象にした被害想定を正しく理解し、どのように備えなければならないのかについてご講演いただきました。

第Ⅲ部では、行政担当者、防災士会会長の方々をパネリストとして迎え、金田先生にもアドバイザーとして参加していただき、「災害を正しく知って正しく備える」と題して、南海トラフ巨大地震の新たな想定を受けて、行政や民間における災害への備えの現状をご報告いただき、現状での課題を今後どのように解決して行くかについて意見交換をしていただきました。会場からも数多くの質問、ご意見が出されました。来場していただいた約250名の方々（行政、地元企業、自主防災組織等の関係者）は、熱心に話に聞き入っておられました。

当研究センターでは、これまで以上に防災・危機管理に関する教育研究活動を通して、地域防災力の向上に努めて参ります。今後ともご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げます。



活動報告の様子
(センター長 白木 渡)



金田義行氏の講演



場内の様子



様々な意見がでたパネルディスカッション